

研究内容の説明文

研究課題名	血小板で産生される脂質により、多発性骨髄腫培養細胞が分子標的薬に高感受性を示す機序の解明
研究期間	平成28年4月～平成29年3月
研究機関名	国立医薬品食品衛生研究所
研究責任者職氏名	部長 斎藤嘉朗

研究の説明	<p>1 研究の目的・意義</p> <p>近年、新たに副作用の少ない分子標的薬が開発され抗癌剤として利用されております。しかしながら、分子標的薬には人により治療効果が明確に分かれる面が存在します。本研究の目的は分子標的薬の治療効果が人によりなぜ違うのか、そのメカニズムを明らかにすることです。最近、我々は分子標的薬が良く効く人と効かない人では血液中のある分子の量が異なることを見つけました。この分子が治療効果にどのようにして影響しているのかを明らかにすることにより、予め分子標的薬に対して治療効果の高いと予想される患者さんが判るだけでなく、治療効果の低い患者さんの治療改善に役立てることができます。</p> <p>2 方法《献血血液の使用法含む》</p> <p>多発性骨髄腫培養細胞に血液と分子標的薬を加え、治療効果の高い条件を見つけます。得られた条件での多発性骨髄腫培養細胞と培養液中の代謝物（主に生理活性脂質）を調べることにより、その治療効果のメカニズムを明らかにします。</p> <p>3 予測される研究の成果等</p> <p>血液検査をすることで、分子標的薬の投与が適切かどうか予め判断できることとなります。また、投与が不適切である患者さんでも治療効果がでる処置方法を開発できる可能性があります。</p> <p>4 血液の廃棄と保管</p> <p>保管は行わず、使用後はオートクレーブ（高温、高圧滅菌）をして、感染性廃棄物として処理をいたします。</p>
受付番号 28J0011	

本研究に関する問い合わせ先

所属	国立医薬品食品衛生研究所
担当者	斎藤嘉朗
電話	03-3700-9528
Mail	yoshiro@nihs.go.jp

本書は日本赤十字社ホームページで公開され、必要に応じ献血者への説明資料として使用されます。